

加賀の伝説の海浜トレインで全日本リレーが行われた。松くい虫被害と向き合うトレインはオリエンテーリングと森の付き合い方を考えさせられる。

2007年10月7日 石川県加賀市
全日本リレー大会



MVクラス埼玉県2走で快走した海老沢正15位から4位まで順位を引き上げ、その後の逆転劇のお膳立てをした。埼玉県は日本選手権・年齢別クラスとまんべんなく得点を重ね、他を圧倒した。

埼玉県優勝

最初は日本選手権を主体として開始された全日本リレーも、高齢化時代の流れでベテランクラスの充実が図られ、生涯スポーツの競技会として発展しつつある。

今年からはいよいよスーパーベテランクラスが新設された。(男子65歳以上、女子50歳以上)都道府県対抗の

団体総合争いの配点も、より生涯スポーツとしての色合いが濃くなっている。

・完走得点が新設された。

・日本選手権(ME/WE)による獲得点数が減り、それ以外のジュニア・シニア・ベテラン・スーパーベテランクラスによる加点が増した。

これらにより、多くの男女別年齢クラスに参加した都道府県の順位が上になるようになった。

そんな中、男子選手権MEで優勝した埼玉県が団体総合優勝を果たした。最多の選手団を送り込んだ愛知県が2位。神奈川県も同率で2位となった。



選手権クラスでのロケットスタート

成績

団体総合得点

- | | |
|-------|-----|
| 1 埼玉 | 34点 |
| 2 神奈川 | 27点 |
| 2 愛知 | 27点 |
| 4 東京 | 23点 |
| 5 大阪 | 21点 |
| 6 千葉 | 17点 |

ME(男子日本選手権)

- | | |
|--------|---------|
| 1 埼玉1 | 2:22:53 |
| 2 愛知1 | 2:24:08 |
| 3 神奈川1 | 2:25:05 |
| 4 東京1 | 2:31:27 |
| 5 静岡1 | 2:37:39 |
| 6 茨城1 | 2:42:08 |

WE(女子日本選手権)

- | | |
|--------|---------|
| 1 東京1 | 2:39:28 |
| 2 埼玉1 | 2:39:46 |
| 3 神奈川1 | 2:49:40 |
| 4 大阪1 | 3:12:24 |
| 5 北海道1 | 3:12:28 |
| 6 千葉1 | 3:18:35 |

MS(男子シニア)

- | | |
|-------|---------|
| 1 埼玉1 | 2:32:44 |
| 2 愛知1 | 2:35:05 |
| 3 広島1 | 2:35:12 |

WS(女子シニア)

- | | |
|-------|---------|
| 1 千葉1 | 3:18:10 |
| 2 東京1 | 3:45:08 |
| 3 静岡1 | 3:53:19 |

MJ(男子ジュニア)

- | | |
|-------|---------|
| 1 宮城1 | 2:14:05 |
|-------|---------|

- | | |
|-------|---------|
| 2 愛知1 | 2:24:33 |
| 3 京都1 | 2:31:54 |

WJ(女子ジュニア)

- | | |
|--------|---------|
| 1 大阪1 | 3:22:30 |
| 2 神奈川1 | 3:29:14 |
| 3 埼玉1 | 3:37:05 |

MV(男子ベテラン)

- | | |
|--------|---------|
| 1 埼玉1 | 2:31:32 |
| 2 大阪1 | 2:33:25 |
| 3 神奈川1 | 2:36:23 |

WV(女子ベテラン)

- | | |
|--------|---------|
| 1 神奈川1 | 2:52:53 |
| 2 埼玉1 | 3:05:16 |
| 3 大阪1 | 4:09:28 |

XV(スーパーベテラン)

- | | |
|--------|---------|
| 1 愛知1 | 1:56:53 |
| 2 埼玉1 | 2:06:03 |
| 3 神奈川1 | 2:24:06 |



2走ではほぼ同時にトレインへ飛び出してゆく村越真(静岡県)と鹿島田浩二(東京都)往年のチャンピオンと現日本チャンピオンの一騎打ち。珍しく鹿島田が崩れ、老獪さで村越の勝ち。

荒れた展開

レースは全般的に荒れた。

男子選手権も女子選手権も1走が戻ってきた時点で上位に大きく差がついてしまった。競り合いが少ない展開になっていた。トレインの通行可能度がよく、見通しが利きにくいパック(選手集団)が形成されることなくレースが進行したようだ。もちろんコース設定もパックが形成されないような工夫がされている。

「流れに乗る」といったレースが展開できない中、選手個人個人の力が試されるレース展開となった。エースの走り一つで一発大逆転が起こるのだ。

そんな中、選手権クラスは男子・女子ともにアンカーによる逆転で優勝が決まった。

自分のレースをきっちりとこなして繋ぐことができたチームが上位に入る結果となった。

| MS, MLR, MLS | | |
|--------------|--------|------|
| MSCZ | 6.3 km | 125m |
| 1 | 52 | ● ● |
| 2 | 61 | ○ ○ |
| 3 | 72 | △ △ |
| 4 | 129 | ▽ ▽ |
| 5 | 78 | ◇ ◇ |
| 6 | 81 | □ □ |
| 7 | 117 | ◇ ◇ |
| 8 | 83 | ◇ ◇ |
| 9 | 82 | ◇ ◇ |
| 10 | 120 | ◇ ◇ |
| 11 | 49 | ◇ ◇ |
| 12 | 127 | ◇ ◇ |
| 13 | 130 | ◇ ◇ |
| 14 | 132 | ◇ ◇ |
| 15 | 134 | ◇ ◇ |
| 16 | 135 | ◇ ◇ |
| 17 | 84 | ◇ ◇ |
| 18 | 71 | ◇ ◇ |
| 19 | 96 | ◇ ◇ |
| 20 | 91 | ◇ ◇ |

- 主要道路
- 舗装道路、駐車場
- 石段、道
- 小道、小径
- 不明瞭な小径
- 切り開き
- 崖、壁
- 境界線、耕作地の線
- 草、ほこら、記念碑
- 小塔
- 湧・池、小さな池
- 式、小湖
- こぶ(小さい、緑長い、朝晩)
- 開けた砂地
- 孤立樹、野に日立つ樹
- 耕作地
- 民家等の敷地
- 森林の開けた土地
- 荒地
- 森林の景地
- 見通しの良い林
- 見通しの悪い林
- 歩行度
- 歩行容易 通行困難
- 立入禁止

加賀海岸



あけしほデザイン室
森永製菓株式会社

LiteraMed

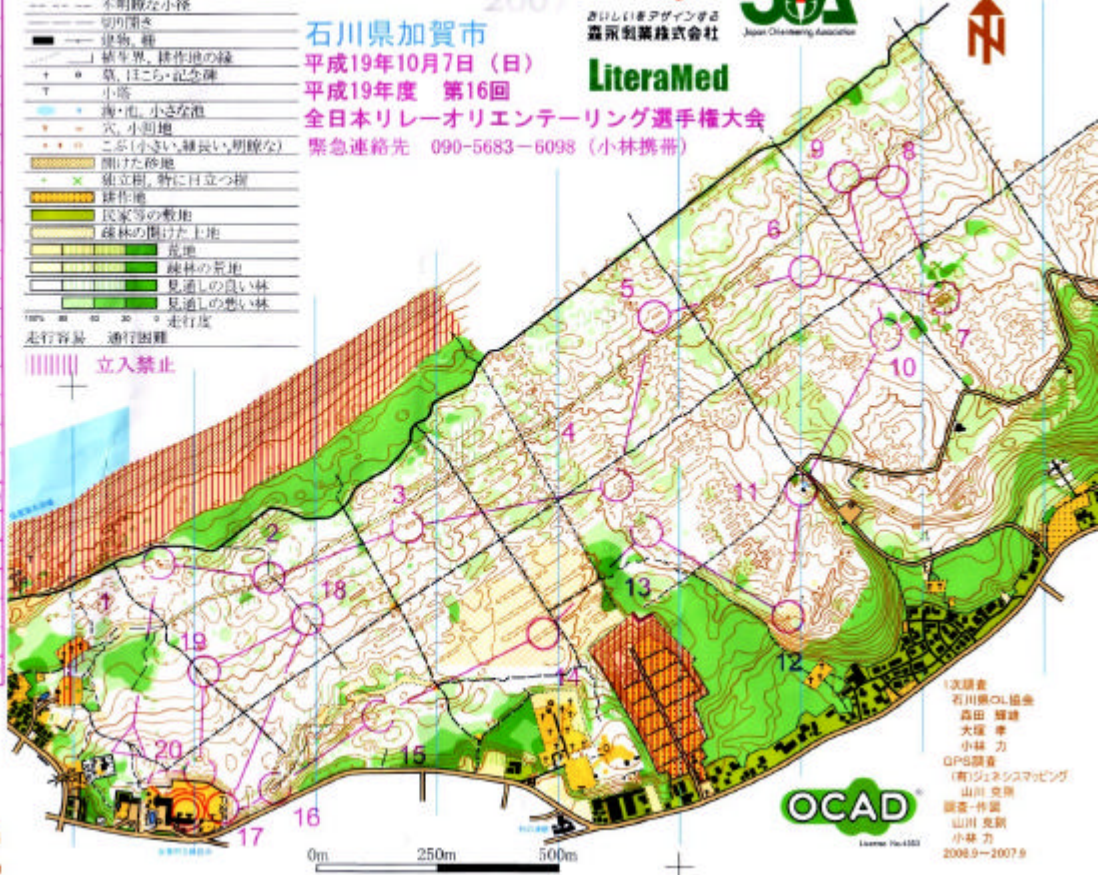
石川県加賀市

平成19年10月7日(日)

平成19年度 第16回

全日本リレーオリエンテリング選手権大会

緊急連絡先 090-5683-6098 (小林携帯)



縮尺 1:10,000
等高線間隔 2.5m

傾斜が緩く、通行可能性が高い加賀海岸のテレイン。その一方、見通しが利かず難易度が高い。このテレインに苦戦したチームは数知れず。

普段のリレー大会に比べ、走力・技術力の差がはっきりとタイムの差となって現われた。さらにテレイン自体の技術的難易度が高く、大きく崩れる者が出た。一人が崩れてもチーム成績全体に影響を及ぼすリレー競技では、総じて荒れた展開になったといえるだろう。

競技時間見積の難しさ

今回のコースはME(男子選手権)クラスこそ予想ウイニング(135分)とあまり変わらない結果(142分)であったが、他のクラスは予想ウイニングタイムを大幅に超えるものとなった。WE(女子選手権)は上位3チームのみ完走扱いで残りの12チームに成績が付かないという事態が生じた。レース後に裁定委員による救済措置がとられ、競技時間の延長が行われた。WS(女子シニア)にいたっては予想ウイニング120分に対して、実際の優勝タイムは198分という大幅な超過であった。あらためてリレーの競技時間見積の難しさを感じさせる。



MJクラス宮城県1走 日下雅広
2位といきなり10分差をつける快走を見せる。その後MJクラスにて宮城県は1位を一度も譲ることなく圧勝する。

個人競技のウイニングを予想することより、リレー競技のウイニングタイムを見積もるほうが難しい。個人は誰か速い人が居るものだが、リレーの場合はチームメイト全員がほぼ個々の走区での想定ウイニングタイムで走ることにはまずない。それでも上位チームはこれに近いレース展開をしてくれるが、中位以下のチームになると崩れる走区が必ず出てくる。これらのチームのことも勘案して競技時間を決めないとリレー競技として成立させることが難しくなるのだ。

加賀海岸スーパーテレイン

加賀市の海岸に横たわる広大な松林が今回のテレイン。テレインのほぼ全域が走行可能。等高線間隔2.5mで表現できる緩やかな地形。直進できるが見通しはそれほど利かない植生がナビゲーションの課題を突きつける。

オリエンテリング競技を行うものにとって、一度は走ってみたいテレインだ。

加賀海岸はインカレショート2001大会のために地図化されたテレイン。その後地元イベントや合宿などの小規模

イベントには使用されることはあったが、今回6年ぶりにビッグ大会に利用された。

加賀海岸のトレインは国内のどのトレインとも類似していない。国内では唯一無二。初めてこのトレインを走る選手はトレインへの対応に苦慮していたようだ。



WS(女子シニア)クラスを走る福岡県1走大平峰子。一時的に福岡県はトップを走る展開になる。最終的には5位。

日々変化するトレイン

加賀海岸は季節変化の無いトレインだ。砂浜の上に広がる松林には真夏でも下草が生えない。真冬でも松の緑は変わらない。四季のある日本のトレインとは思えないほど地図上の植生の変化が少ないトレインだ。

だが、ここ3年で状況は一変した。数年前から加賀海岸を侵食してきた「松くい虫」の被害が一気にトレインに広がってきたのだ。立ち枯れた松を再生する方法はない。それより被害が広がらないうちに伐採するしかないのだ。すでにトレイン東に接する松林は切り倒され、松林が残っているのは今回競技で使用した、加賀海岸の西半分だけ。その西半分にもがん細胞が体を

蝕むがごとく「松くい虫」の被害地が拡大している。

これを食い止めるべく、毎週繰り返される伐採作業。大会を目前に控えた時期でも毎週のように新たな伐採地とそれに続く新たな道が作られたという。

大会一週間前までのトレイン変化はなんとか地図に反映されたが、さすがにそれ以降の変化は地図には反映されていない。このことは事前のテクニカルミーティングで参加者に周知された。今回使われたのは日々激しく変化するトレインだったのだ。

全日本リレーが終わった10月20日。加賀海岸のトレインでは伐採のあとに植林作業が始まる。石川県オリエンテーリング協会もこの植林に協力するという。このように地元の人に守られた森があるからこそ、私たちは競技を楽しむことができる。

江戸末期から延々と続けられてきた砂被害に対する植林。この闘ぎあいは今も続いているのだ。



難しいトレインと長めのコースに対応できず、繰上げスタートになるチームが続出。

全日本リレーの生まれ故郷

全日本リレー大会は今回で第16回目となる。第1回大会は東京都で開催されたが、その1年前に第0回全日本リレー大会というべき「都道府県対抗リレー大会」が石川県金沢市で開催された。

国体開催県だった石川県が都道府県対抗リレーを提唱し、多くのオリエンティアの賛同を得て多くの都道府県代表団が石川の地に結集した。このムーブメントが翌年の第一回全日本リレー大会へと受け継がれたのだ。そして全日本リレーは再び石川県に戻ってきた。当時の知る者には感慨深い。

インカレショート2001を知るものにとって、加賀海岸も感慨深いトレインだ。この初めてのタイプのトレインを図化するにあたって、調査者も手探り、参加者も手探りだった。

そんな思い出のトレインも時代の流

れとともに伐採され、再生されようとしている。

今回の全日本リレーでは参加者が増加に転じた。これを明るい材料として、オリエンテーリングも次世代の苗を植えてゆく時期に来ているのだろう。



男子選手権を制した埼玉県ME1チーム高橋善徳 / 坂本貴史 / 新隆徳
1走・高橋がライバルチームとの差を3程度広げる。2走では愛知・松澤の快走の前に一時トップを譲るが、3走・坂本が5分差をひっくり返す走りを見せ、埼玉を優勝へと導いた。

来年は三重県で

2008年度の全日本リレーは三重県の東青山で開催される。素晴らしい舞台を用意してくださる開催者に感謝し、そこで全国のオリエンティアと競い合うことを楽しみにしている。

そして何より良いのは、全日本リレーを契機に地元のオリエンテーリング競技者同士が仲間となり、同じ目標に向かってゆくことである。

この機会をとらえ、どれだけ各地元のオリエンテーリング愛好家を活性化することができるかが、本当にこの大会の価値を決めるのだ。

(木村佳司)